

令和 4 年度 自転車活用推進功績者表彰 受賞者一覧

令和 4 年 5 月 27 日付

(敬称略、五十音順)

【個人：2名】

○井口 和彦 <和歌山県>

全国初のサイクリング検定の実施、サイクルイベントを通じた乳がん検診の啓発活動、ナショナルサイクルルート指定やサイクルトレイン運行と連携した観光客誘致等、自転車を幅広く活用しながら地域課題の解決に尽力。

○山田 大五朗 <福岡県>

元マウンテンバイク選手として、イベントやサイクルツーリズム推進を通じた地域振興、九州北部豪雨災害復興支援に貢献。「自転車の完全循環利用型社会」実現のため、自転車再生利用や定額利用サービス等の事業を運営。

【団体：6団体】

○地球の友・金沢 <石川県>

行政機関や地元高校生と連携した自転車の安全性向上の取組等で、金沢市が自転車施策の先駆者となるよう貢献。そのノウハウを、全国会議の運営、国際会議での活動報告等を通じ国内外に展開。

○ツール・ド・東北実行委員会（主催団体 株式会社河北新報社 ヤフー株式会社） <宮城県>

東日本大震災復興支援のため 2013 年以來開催している「ツール・ド・東北」は国内最大級規模（約 4,000 人）に。収益を積み立てた「ツール・ド・東北基金」により観光振興や復興支援に貢献。

○那須ブラーゼン <栃木県>

日本初の観光地での地域密着型ロードレースチームとして発足。地域ブランドの PR や累計 250 回超、20,000 人に及ぶ自転車安全教室のほか、コロナ禍においては、こども食堂などのフードデリバリー、JA との連携による農畜産物 PR など地域貢献に奔走。

○西日本旅客鉄道株式会社 和歌山支社 <和歌山県>

きのくに線沿線約 150km で予約不要・追加料金不要のサイクルトレインを全曜日で本格実施。駅設備の改良やモデルコースの設定などの誘客強化で区間乗客数増を達成。

○一般社団法人日本パラサイクリング連盟 <福島県>

障害者自転車競技の日本代表選手を育成し、東京 2020 パラリンピック大会では杉浦佳子選手が 2 種目で金メダル獲得。タンデム車活用・普及を通じた障害者の社会参加促進、いわき市への交流施設開設を通じて、自転車文化の発信や地域活性化に貢献。

○一般社団法人南アルプス山守人 <山梨県>

マウンテンバイク振興にとどまらず、官民が連携したボランティアによるトレイル整備、森林保全、移住促進等、地域全体の活性化に貢献。地域課題解決手段としてのマウンテンバイクの新たな可能性を開拓。